第３回わかやまリノベーションまちづくり構想検討委員会　議事概要

日　時　平成 28 年 10 月 20 日（木）午後２時～午後５時

会　場　guesthouse RICO（和歌山市新通５丁目６　ユタカビル）

出席者　嶋田委員長、上田委員、梅田委員、樫畑委員、源じろう委員、佐竹委員、武内委員、豊田委員、本谷委員、吉川委員、依岡委員

主な議事

１　開会

２これまでの委員会の主な発言と女性の就業･起業、子育て環境について、資料に基づき説明
（商工振興課　國生）

３　今回の趣旨説明について、説明
（嶋田委員長）

４　講演「ゲストハウスから学ぶ、子育てと仕事の関係」
（前田　有佳利氏）

５　各委員の取組紹介
（上田委員、佐竹委員、本谷委員）

６　テーマレクチャー「まちのなかで田舎暮らし～軍手と長靴がこどもの未来をつくる～」
（馬場　未織氏）

７　フリーディスカッション

前田委員　　和歌山は田舎なのか都会なのか、皆の位置付けを改めて確認したい。それにより進み方が変わってくる。また、どこに行けばほかのママに会えるか、ホットスポットはどこなのか、その情報源があれば知りたい。

本谷委員　　和歌山は素敵な場所が多いが、フォトスポットが少ない。子どもと家族で写真が撮れるかわいいスタジオやロケ場所が増えてほしい。子どもの写真だけを載せた専用のインスタグラムを作るのが流行の一つになっている。SNS に載せたくなるし、ハッシュタグや位置情報から和歌山の PR にもなる。新しく作らなくても、既にあるカフェとかちょっとした工夫ですぐできるのではないか。

上田委員　　フォトスポットはいっぱいあると思う。岡公園の滑り台や昔の市電もフォトスポットであると思う。今、妊娠したら各保健所で母子手帳をもらえる。また、市役所に行けば「つれもて子育て応援ブック」をもらえる。また、ウェブでも子どもとお出かけできる情報があり、アプリにもなっている。毎日どこかで子育て中のお母さんが集うイベントがあり、そこに皆が集まる。支援の専門用語で、広場ジプシーと呼んでいる。また、ママの LINE グループもあり、それで集まる場所が勝手にフォトスポットになっている。

嶋田委員長　　市役所職員は知っていたか。

上田委員　　市役所がきちんとやっている。それを知らない人に伝えるのが私たちの役目。

嶋田委員長　　この辺にお母さんたちの集まる広場的スポットはあるのか。

上田委員　　ぶらくり丁の石窯ポポロの斜め前にキッズステーションという集いの広場がある。

嶋田委員長　　お母さんと子どもたちが来て、気楽に集える場所であれば、このような場所も発信できるのか。

上田委員　　できる。

豊田委員　　子育てに関わる中で、NPO 法人キッズステーションの理事長と出会って子育ての世界を知った。キッズステーションに足しげく通い、結構サークルもできた。マイプレ和歌山市の「あのねっと」で約 10 のサークルを紹介し、情報発信している。和歌山市でも今年から子育て情報のスマホサイトでいろいろな情報を発信している。特に子育てや女性が働く環境については、県も市も非常にたくさん取り組んでいる。ところが、一般の人がその情報に到達しない。例えば、子育てするようになると保健所へ行き、そこで情報をもらえるが、そこに行くまでは情報を知らない。和歌山市ホームページ、市報わかやま、和歌山県報も見ない。和歌山県男女共同参画推進の審議員を務めていたが、仕組みが上手く機能していないため一歩前へ出にくいのではないか。活躍している方を見て私もやりたいと思った人は Facebook などの SNS でコンタクトを取るだろうが、そうではない人に対してはもっと手を差し伸べる形に持っていければよい。行政はやりたい人向けに広報するから、やりたい人しか引っかからない。そうではなく、もっと様々なところへ広げればよい。そうすれ

ば、女性ももっと働きやすくなるし、暮らしやすくなる。先日、行政と民間がこれから働こうとする人向けのランチ会を開催したが、本当に仕事を探したいという人がいなかった。この会に追い討ちをかけて、その次の会を行政と民間が打っていけば、様々な対象の人が入ってくると思う。そういうまちづくりを行政と民間が一緒に行う枠組みが必要。

嶋田委員長　　和歌山は相当子育てしやすそうなまちに聞こえるが、どうか。

吉川委員　　今週末はイベントがたくさんあり、子ども向けのイベントも多く、和歌山は非常に子育てしやすいのではないかと思っている。にこにこのうえんという農園をしているが、そこでも子育て向けのイベントを開催している。

嶋田委員長　　広場ジプシーの方が使っているアプリに今日の情報を掲載したらお母さんが何十人も来たと思う。役所内の情報共有も課題。

馬場さん　　上田委員のような方がいるのは心強い。Youtube などで相談にのってはどうか。

嶋田委員長　　和歌山らしさを PR したほうがよい。

馬場さん　　和歌山市から全国に発信し、そこで触発される全国の動きもあるだろう。

嶋田委員長　　そのために和歌山を選ぶ人もいるかもしれない。

馬場さん　　和歌山の規模感が良い。東京はあまりにも膨大な都市。和歌山で住みやすいエリアを上手く伝えることができればよい。

嶋田委員長　　和歌山は田舎なのか都会なのか、という気がしてきた。どちからよくわからない感じの心地良さがあると感じた。

佐竹委員　　和歌山には、海も山も川もあり、自然がある。そこに私たちがいる。自然と密につながった生活をしているかというと、そうではない。都会暮らしとまではいかないが、普通の住宅で学校区があり、子どもたちが四角い画面を見ている。私は加太で生まれたため、海があり、公園もない場所で育ってきた。そういう経験を知っている大人が今の子に対し、自然を通した五感を感じる体験を、アートを通して知ってほしい。だから、そういうことを知っている人たちが、田舎の海でイベントをするとか、川でワークショップをするとか、少しずつ大人を巻き込み、大人が真に楽しいという感覚になれ

ば、子どもにも広がると思う。そういう大人が増えたらとてもよい。自然のスペシャリスト、自然を楽しむ人がいるところがスポットになり、和歌山に広まればよい。

本谷委員　　私が小学校２年のとき、釣りの授業があったが、今はないのか。

嶋田委員長　　ないのでしょうか。馬場さんがお話した、名前を知らなければただの雑草、知っていたら宝の山に見えてくる、山もただ外から眺めると綺麗だが、山に入ると昔エネルギーとしていた薪を取るなど、人間の生活に密接につながり手入れがされているのがわかる。そういうものをもう一度見つめ直すことが大事だと思う。今話に出た人釣りの達人たちも多分いる。そういう人をつないで、広場ジプシーに情報を上手く発信するだけで、まちなかの印象と価値観がガラッと変わるのではないか。

上田委員　　田舎か都会かの話に戻るが、ほどよい田舎でほどよい都会だと思う。自分自身に人生のステージがあるように、子ども自身にもステージがある。保育園児の親になって感じることは、和歌山に駄菓子屋がないということ。子どもに与えることも大事だが、子どもたちが子どもたち自身のコミュニティを作ることも大事。そのコミュニティとは、親に対する秘密。秘密を自分たちで作れる場所がない。和歌山のママたちは、公園がほしいと言う。防災メールが来て、近所の公園には行かせられない。和歌山には、山、海、川もあり、魚も美味しいが、公園がほしい。子どもたちの秘密の場所作りに駄菓子屋がほしい。駄菓子屋のおばちゃんに見守り代のようなものを渡し、夜まで開けてもらってはどうか。

梅田委員　　駄菓子屋でなくても、例えば、町内のお年寄りや一人暮らしの方が、見守り隊のように、家で昔の遊びを子どもに教えたり、習字を教えたりするのがあってもよい。駄菓子屋と決めると商売がやりにくいのかもしれない。和歌山ではわりと近所の人が見守っている。声掛け隊という感じで、町内の人が子どもを見かけたら早く帰りなさいと声を掛けるよう市報に載っていたと思う。逆にお母さんが、変な人に声を掛けられたら逃げるよう言うなどストップをかけている。主人の母には私たちの知らないことを教わった。今、核家族が多いと思うが、できればご両親と一緒か近くに住んだらよい。近所の方とつながりを持てれば、知らないことを教わったり、自然のことも教わったりできるのではないか。

源じろう委員　女性の方がエネルギッシュで、話を聞いて面白いと思った。前田さんの話した「シェアする」という言葉が非常にいいと思った。その目線はなかった。例えば、漁船を主婦でシェアするとどうなるのか。何か展開しそうな気がする。後ろにボートを引っ張り、子どもが乗って楽しんだり、魚を捕ったりする。和歌山らしくてよいのではないか。様々なシェアの仕方がある。馬場さんの話を聞き、まちなかも知っているようで知らない部分が多いのではないかと思った。だから、無理にでもまちなかに来て、まちなかを知ることが増えればそれが愛につながり、まちなかへの愛がつながり、何かができるのではないかと思い、様々な可能性を感じた。

嶋田委員長　ぶらくり丁を西に進み、プラグの角を左に曲がった右手にお菓子問屋があるが、駄菓子は売っていないのか。

榎本さん　買える。

嶋田委員長　そこに小売してもらえばどうか。今あるものでも、少し頑張れば、実はすぐつくれたりするのではないかと思う。

吉川委員　和歌山は非常に子育てしやすいまちだとわかった。それをもっとアピールするべきだとわかった。

依岡委員　私は東京で生まれ、小学校５年生のときに和歌山に帰ってきた。そのときの東京はまだ近所付き合いがあり、駄菓子屋もたくさんあった。我々が育ってきた環境とかなりかけ離れている感じがあるため難しいが、地域が一体になって和歌山を盛り上げていただきたい。

樫畑委員　何が足りないのかがわからないくらい、和歌山は中途半端なところであり、際立ったキャラがないかもしれないが、ほどよくバランスの取れた、都会であり、田舎である。八百屋、お肉屋、魚屋などは大分減ってきたがまだ残っている。東京や大阪と比べると、家と職場が近い。その意味で言うと、夜、子どもたちと触れ合う時間がながい。たけのこ堀や小さな生き物を見つけに行くなら、車で 30 分、40 分東に走ればよい。海にもそれくらいで行ける。逆に何でもある感じがする。待機児童の問題も和歌山は悪くないのでは。

上田委員　そんなに悪くないが、危ういところもある。

樫畑委員　中心市街地に足りないもの、駄菓子屋や子どもを預ける場所など、もう一回探りながらやれば、賑わいという意味でのまちづくり

もできると思う。

依岡さん　私は 25 歳だが、まだ駄菓子屋がたくさんあった。駄菓子屋が他の小学校の児童と関われる場所で、唯一のコミュニティだった。小さいときは人見知りだったが、駄菓子屋はありがたい場所で、皆で通いつめていた。そこで計算を覚えるなど、教育にも大事なのではないか。昔、紙芝居を読むおじさんがいた。紙芝居をしながら足し算や引き算ができた子には型抜きをくれた。人見知りの私にとってはとても刺激的で、ありがたい経験であった。定年退職した方が集まり、もう一回給料を得て地域で活動すれば、一石何鳥にもなる。都会か田舎かという話については、分ける必要がないと思う。この近くで生活をしているため、田舎に住んだと自信を持って言うことはできない。中学校一年生まで蛙を見たこともなかった。田舎も都会もあるというのは、和歌山の良さ。車を運転できるようになり、行動範囲が広くなり、和歌山にはカフェなどまだまだ良いところがいっぱいあるが、発信できていない。まだまだ可能性を秘めていると思う。和歌山は田舎でも都会でもなく、どちらも兼ね備えた場所で、子育てがしやすい場所だと思う。和歌山に戻りたくないと思っている子も、いつかは戻ってくるところになっていてほしい。そういうポテンシャルを兼ね備えたまちだと思う。

本谷委員　大人になって横のつながりが減ってしまったため、地元の飲食店、海、カフェを巡って同窓会を開催している。同窓会に家族、子どもを連れて、親が育った場所を見せてはどうか。

嶋田委員長　素晴らしいアイデア。

源じろう委員　大体のことはできる船をつくって、船で巡りたい。

嶋田委員長　小さい頃地元に駄菓子屋があった。そこは、おばあちゃんが趣味で店番をするレベルの経営だったため、子どもたちの居場所になれたのではないか。経済的に自立して経営ができている RICO や石窯ポポロ、水辺座、ヌメロは夕方駄菓子屋をするというルールにしてはどうか。近所のおばあちゃんがお菓子を売ると、そのおばあちゃんのお小遣いになる。経済合理性だけを追求すると成り立たない。そういう場所を皆でアイデアを出してもう一回つくってはどうか。

前田さん　千葉のおもてなしラボというゲストハウスの軒先で駄菓子が売られている。ローマ字で DAGASHI と書いて売っており、海外の人にもとても受けている。日本のコンパクトでかわいいお菓子がカラフル

なパッケージに入り、非常に安いお金で手に入る。お土産にしやすく、持って帰りやすい、配りやすい。普通のお土産の大きなお菓子より、ローカルで喜ばれる。まず、海外の人たちが通るスポット、RICO や他のホテルでできてもよい。小学生の帰る時間は大体夕方で、彼らが駄菓子屋に行くのは２時間くらい。２時間だけ駄菓子屋として軒先を無償で貸してもよいとすると、まちなかが柔軟に回っていくと思う。RICO、ヌメロ、水辺座にお願いしたい。

嶋田委員長　　まちが結構変わると思う。

源じろう委員　　自分の場所作りは、まちの声を聞き、何があったら腑に落ちるか考え、まちの声を形にすること。津屋を手掛けたとき、小学生が通るため、駄菓子屋をしようと思った。小学生がある程度通るところは、してもよいのではないか。

嶋田委員長　　自転車もよいのではないか。都会からやってきて、その場で夕方に駄菓子屋が開かれるという場所のあり方もあるのではないか。

源じろう委員　　駄菓子屋に子どもがいる風景というのは、自然でいい。それを見ていると、大人として安心できる。

嶋田委員長　　誰かやらないか。

豊田委員　　多分する。子ども食堂が和歌山でも少しずつ広がっており、そういうものをしたい。駄菓子屋もしたい。RICO の１階を、近所の人、高齢の独居老人、家族の方、ゲストも一緒になって、ご飯を作り皆で食べようというコンセプトのシェアキッチンにする予定。既に隣で、海外の方や来られた方が料理を作り皆で食べている。そういうコミュニティの場があればよい。和歌山に足りないのは、区分け。公園の使い方は行政がきちんと区分けしたらよい。土日にボール遊びができる公園はとても少ない。海南市や堺の方の公園に行っている。ここでは高齢の方とのすみわけができていない。子どもを育てにくい公園ができているから、行政にもっと区分けしてほしい。ここから 90 分で世界遺産の高野山に、60 分で白良浜のビーチに、更に 90 分で熊野三山に行ける。この近辺でも 40 分、45 分で、川や素晴らしい海、山もあり、自然に囲まれた素晴らしい地域。また、３時間後には国際線に乗って世界中どこへでも行ける。それくらい和歌山は世界に開けている国際都市。LCC という格安の航空会社を使えば、１週間後には安い運賃で海外に行ける。大阪は国際都市にふさわしいが、田舎がない。海、山、川や世界遺産が近くにない。そう

いう意味でいうと、国際都市に一番近いのは和歌山。その優位性を考え、情報として認識し直し、発信方法を変えていけば、やはり様々なところから人が住んでくる。ただ、情報の整理ができておらず、情報が埋もれている。今回リノベーションという手法の中で、情報が発掘されてきているので、きちんと整理し、情報発信していけば非常に住みやすいまちになる。

嶋田委員長　　賞味期限間近のお菓子は問屋で安く買える。皆で共通して仕入れればよい。

佐道さん　　今、堺に住んでいるが、来年４月に和歌山市に移住しようと思っている。子どもを育てていきながら働いていきたい、自然が豊かな場所で都会の生活も捨てたくないと思ったときに、和歌山市はちょうどよい。川、海、山もある。和歌山の滝畑で森の幼稚園というのを行いながら、様々な事業を展開し、暮らしていきたい。移住者が集まる集いでは、兵庫県の山奥や、紀美野町、更に南を考えている方が多いが、和歌山市は非常に良いと思う。フィールドとして確保している滝畑は、蛍がたくさんいて、耕作放棄地もたくさんあり、農業もしやすいが、皆、そういうことを全然知らず、紀美野町などに行っている。和歌山市はとても環境が良く、大阪にも出やすい。子育て環境もとても良い。そういう場所をもっと情報発信すれば移住者も増えて盛り上がっていくのではないか。

８　本日のまとめと次回の案内
（嶋田委員長　外）

９　閉会

（当日の様子）